

監修：日本災害復興学会会長
明治大学大学院特任教授 工学博士 中林 一樹

文部科学省選定

震災の教訓を活かせ

風化させない記憶と記録



私たちは、絶対に忘れない……



扉が開いてモノが飛び出すのを防ぐ



東北地方太平洋沖地震(M9.0 震度7)
2011年3月11日

企画意図

「大災害が常に身近に起こり得る」という現実を私たちに突きつけた東日本大震災。これまでも日本では、たびたび大地震・大津波が繰り返され、多くの被害を出してきました。そして過去の人々は、災害の記憶を、さまざまな形で記録し、教訓として残してきたのです。東日本大震災でも、過去の教訓を守って生き延びた人は少なくありません。

本作品では、導入として東日本大震災後の研究で明らかになってきた、最新の大地震・大津波のメカニズムを解説。そこで三陸地方の「津波てんでんこ」を初めとした、日本の各所に残る大地震の記録と言い伝えをたどりながら、先人たちの知恵を防災活動に取り入れている、各地での取り組みを紹介します。さらに関東大震災、阪神・淡路大震災に焦点を当て、これら災害の特徴的な被害と、なぜそのような被害が出てしまったのかというメカニズムを解説。そこから得られる教訓は何だったのかを紹介します。

近い将来の大地震・大津波に備えるために、過去から学び、今、私たちに何ができるのか、強く訴える内容です。

一般向け

震災の教訓を活かせ 風化させない記憶と記録

■東日本大震災の教訓

東日本大震災で、15メートルを超える大津波が押し寄せ、2,000人もの死者・行方不明者を出した岩手県陸前高田市では、この被害を後世に伝えるため、ある取り組みが進められている。津波到達地点を結んで桜を植える、植樹プロジェクトだ。活動する若者にマイクを向ける。「以前の津波到達地点が、ちゃんと教訓として残っていたら、ここまでの被害は出なかったかも…」その思いから始まった、この取り組みで、現在、500本以上の桜が植えられている。

■日本で繰り返した津波被害

東日本大震災を引き起こした地震の時、地下では何が起こっていたのだろうか？その仕組みが最新の研究で明らかになってきた。なぜ巨大津波が起こるのか？そのメカニズムに迫る。

三陸地方は、過去、何度も津波の被害に遭い、三陸海岸には津波の恐ろしさを伝える石碑や文書が各地に残っている。津波から身を守る知恵として伝えられている「津波てんでんこ」の意味とは？その他、「南海トラフ」で起きた地震に関する記録や被災者の記憶をたどり、先人たちの残した教訓を改めて検証する。

■関東大震災…巨大地震と火災の悲劇

1923年に起きた関東大震災とは、どのよう

な災害だったのか？そのメカニズムと、被害の特徴を振り返る。10万人以上にもおよんだ死者・行方不明者の90%近くが、火災旋風を伴った大火災で亡くなっている。地震時の火の始末の重要性を改めて再確認しよう。

■内陸地震の恐怖…阪神・淡路大震災

阪神・淡路大震災をもたらした、兵庫県南部地震は、浅い活断層による内陸地震だった。一瞬の揺れで10万5000棟の建物が全壊。早朝に発生したため、死者の大部分は自宅で寝ているまま、転倒した家具や崩れた家の下敷きになって亡くなった。内陸地震の発生メカニズムと被害の特徴を検証し、対策を考える。

■地震に備える

地震から命を守るための基本は、まず揺れによる建物の倒壊や家具の転倒を防ぐことが第一。そして火災を防ぐための基本と、初期消火の基本を知っておくこと。さらに、家族で一緒に家の中の危ない場所を点検したり、避難場所までの道を歩いたりすることも重要だ。日頃からご近所との連携を密にしておくことも、いざという時の助けになる。

過去の人たちが多くの犠牲と引き換えに伝えようとした教訓に学び、私たちも日頃から、いつ起こるかわからない災害に備えよう。

監修

日本災害復興学会会長
明治大学大学院特任教授
工学博士 中林 一樹

企画・制作統括

高木 裕己

脚本・演出

川崎 けい子

コーディネーター

斎藤 晃顕

■ DVD・VHS [カラー・25分]

■ ライブラリー価格 ¥65,000+税

■ 制作著作：株式会社映学社（2014年）

● お問い合わせ、お買い上げは……



株式会社映学社

EIGAKUSYA CO., LTD.

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-7-8らんざん5ビル
TEL: 03-3359-9729 (代表) FAX: 03-3359-4024
<http://www.eigakusya.co.jp/>